

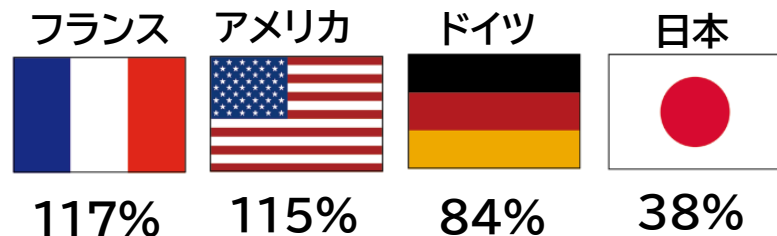
食の未来を考えよう！

かのやの食べて
育む知恵袋
2024.6



食料自給率とは、国内で消費される食べ物が国内の生産でどれくらいまかなえているかを示す指標です。日本の食料自給率は低水準です。食料自給率が低いと何が問題なのかを知って、食料自給率を上げるためにできることを考えてみましょう。

世界の食料自給率くらべ



日本の食料自給率(カロリーベース)は、38%です。世界の食料自給率とくらべてみると、フランスは117%、アメリカは115%、ドイツは87%で、日本は先進国の中でも最低の水準です。

※日本は2022年度、そのほかの国は2020年の値。
出典 農林水産省「食料需給表」

食料自給率アップの取り組み

食料自給率向上のために、自分たちにできることをしましょう。



① 今が旬の食
物を選ぶ



② 地元でとれる
食材を食べよう



③ ごはん中心のバ
ランスのよい食事を
しよう



④ 食べ残しを
減らそう



⑤ 自給率向上の
取り組みを知り、
応援しよう

Q. 食料を輸入に頼っているとどうなるの？

A. 日本は、食べ物の多くを外国産に頼っているため、世界のできごとの影響を受けやすくなっています。例えば、世界的な人口増加で食料が足りなくなったり、外国の経済事情で輸入ができなくなったり、地球温暖化や異常気象で収穫量が減ったりすることも考えられます。安心して食べるためには、食料自給率を上げることが必要です。



地産地消

地域で生産された農林水産物を地域で消費しようとする取り組みを地産地消といいます。新鮮でおいしい地域の食材を食べましょう。



【動画紹介】ニッポンフードシフト～食から日本を考える～

ニッポンの「食」をめぐる“これまで”と“いま”、そして“これから”について、動画でわかりやすくご紹介しています。自分たちが日々食べているものはどこから来たのか、誰がどのように作ったものなのか。それが社会や地球環境とどのようにつながり、私たちの未来へとつながっていくのか。いま手にとろうとしている食材、これから食べようとするその食事から、自分自身の「食」の未来について考えてみませんか。

